

授 業 科 目 名	日常生活活動実習	授 業 形 態	演 習
		配 当 学 期	2年（後期）
担 当 教 員 名	中村 侑造	単 位 数	1単位
		時 間 数	45時間
授業概要 学習目標	<p>〔授業概要〕</p> <p>日常生活活動学で学んだ知識を踏まえ、障害に合わせた評価や指導を考える。 障害を持つ者の生活をイメージし環境整備も含めた総合的な支援を考える。</p>		
	<p>〔学習目標〕</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日常生活活動の評価を実施できる。 2. 障害像に合わせたADLの評価・治療プログラムの立案・指導を行うことができる。 3. 障害に合わせた環境整備を提案することができる。 4. 適切な介助方法や指導法を実践することができる。 		
授業回数	授業内容		
第 1 回	CVAの病態と障害特性、基本的なADL		
第 2 回	CVAのADL実技		
第 3 回	脊髄損傷の病態と障害特性、基本的なADL		
第 4 回	脊髄損傷のADL実技		
第 5 回	関節リウマチのADL		
第 6 回	関節リウマチのADL実技		
第 7 回	人工関節置換術後のADL		
第 8 回	人工関節置換術後のADL実技		
第 9 回	車いす体験実習		
第 10 回	車いす体験実習		
第 11 回	呼吸器疾患のADL		
第 12 回	呼吸器疾患のADL実技		
第 13 回	循環器疾患のADL		
第 14 回	循環器疾患のADL実技		
第 15 回	神経筋疾患のADL		
第 16 回	神経筋疾患のコミュニケーション		
第 17 回	住宅改修とADL①		
第 18 回	住宅改修とADL②		
第 19 回	住宅改修とADL③		
第 20 回	住宅改修とADL④		
第 21 回	ポディショニングについて		
第 22 回	疾患別ADL動作の演習まとめ		
第 23 回	総括		

評価方法	<p>定期試験(70%)、授業中の提出課題(30%)を合計して評価を行う。 授業中の提出課題は5段階評価とし、各課題点の平均点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 記述内容と記述量が伴っている場合 A (30点) ・ 記述内容に大きなズレはないが、記述量が少ない場合 B (20点) ・ 記述内容に誤りはあるが、記述量が多い場合 C (15点) ・ 記述内容に誤りがあり、記載述が少ない場合 D (10点) ・ 未提出 E (0点)
教科書 参考図書	<p>[教科書] 「日常生活活動学・生活環境学」 医学書院 「日常生活活動学」 MEDICAL VIEW</p> <p>[参考図書]</p>
履修上の 留意点	<p>動作指導を行うには、まず自分自身はその動作を行えることが重要です。なぜそのような手順を取らないといけないのか、理解できるようになりましょう。</p>
メッセージ	<p>模擬患者を通して、どの動作に不自由を感じるかなどを経験してもらえると嬉しいです。</p>